

令和5年度大規模災害訓練 報告

新小文字病院 災害対策支援室：富永、辻本、武田、小松、宮近、熊、猪股、井上、成田、大木、岡本、中村、藤田

【背景】

新小文字病院は門司区10万人地域の中で唯一の災害拠点病院です。災害拠点病院は災害発生時に地域の医療機関、行政、消防などと連携し医療を支える中心的役割を果たすことを求められています。災害拠点病院はDMAT派遣体制の整備とともに防災計画に基づいた大規模災害訓練の実施、その他災害に対する研修などが定められています。

【目的】

病院近傍で局地災害が発生したものととして多数受け入れ訓練を行い、実災害時に地域医療を支える活動を行えるようにすること。

【日時】

令和6年3月16日14時~16時

【訓練概要】

13時頃、JR小倉-門司間において4両編成の列車の脱線事故が発生したと想定。多数傷病者を受け入れる訓練。全傷病者を一旦、当院で受け入れ。必要あれば転送の判断を行うなど治療およびトリアージ機関として活動。



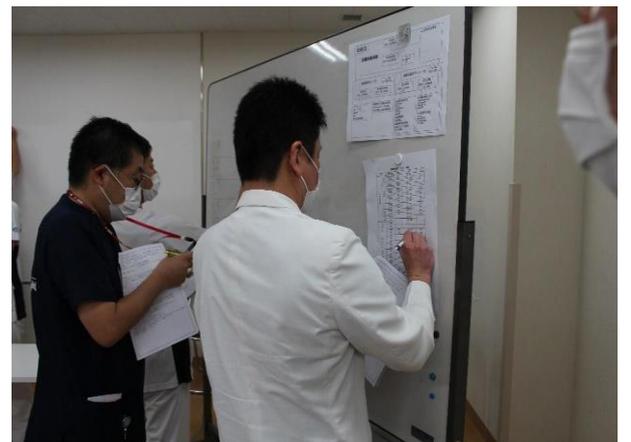
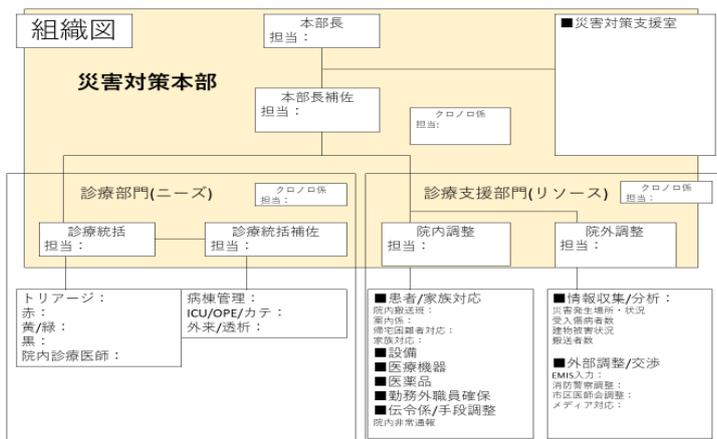
【訓練会場】

災害対策本部：3F会議室
トリアージエリア：正面玄関
赤エリア：ER（救急外来）
黄色エリア：総合受付前
緑エリア：会計前

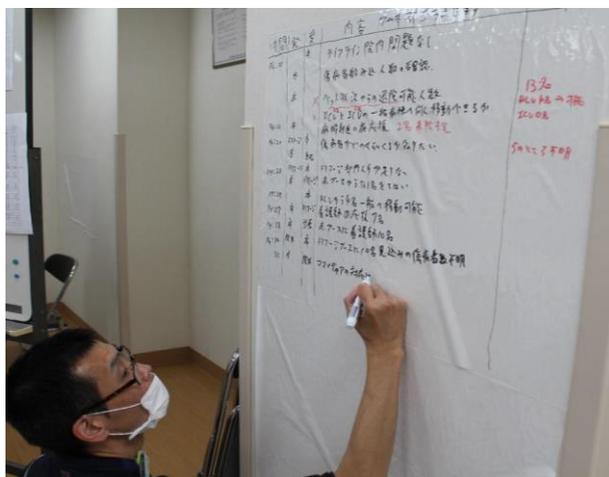


【各エリア総括】

①本部



災害対策本部では必要な情報を把握し、各部門へ指示を出すことが求められます。そのため、いかに正しい情報を収集できるかが大事になります。情報は、ホワイトボードやライティングシートを使用しまとめていきます。今回は事前に組織図を作成しており、各部門のアクションカードに沿って本部立ち上げを行っていただきました。最初に混乱はあったものの比較的スムーズに立ち上げを行うことができました。



②トリアージエリア

トリアージエリアでは、運ばれて来た傷病者を緊急度別に振り分けを行います。

赤色：緊急治療群

(すぐに処置をしなければ命の危険性が高い)

黄色：準緊急治療群

(治療は必要であるが、赤色より優先度は低い)

緑色：軽傷

(特に医療的処置を必要としない。最も緊急性が低い)

今回の訓練では多数傷病者が運ばれてきたため、素早いトリアージ能力が求められます。



③赤エリア

緊急で治療が必要な傷病者が運ばれてくるため、多くの人員が必要となります。人員や医療資機材が足りない場合は、本部と連携し必要な人員・物資を補充してもらいます。今回の訓練では、本部と赤エリアでトランシーバーを使用し情報共有していました。



④黄色/緑エリア

黄色エリアでは主に一人で歩くことのできない傷病者（骨折疑い・打撲傷）などの対応をしました。その中には時間とともに緊急度が高くなり、赤エリアへ移動する傷病者も隠れていました。

緑エリアでは緊急性は低いものの、多くの傷病者が運ばれてきたため対応に追われることがありました。



まとめ

今回の訓練では、多数の職員・看護学生の方々に参加していただきました。

コロナによる影響で、大規模訓練を今まで実施できておらず、今回やっとの思いで実施することができました。当院は門司区で唯一の災害拠点病院を担っており、今後も地域の中核として訓練を実施し、実災害に備えていきます。

